



# 武蔵野市セカンドスクール

～子どもたちの生きる力を育てる～

武蔵野市について

セカンドスクールのはじまり

セカンドスクール20年のあゆみ

実施状況

主な活動プログラム

セカンドスクールにおける体験活動の教育的効果

さらなる充実を目指して





## ご挨拶

武蔵野市では、普段の学校生活（ファーストスクール）では体験し難い自然体験や生活・文化体験等を補い豊かにするため、長期宿泊体験活動である「セカンドスクール」を平成8年度から市立小学校5年生及び市立中学校1年生を対象に、平成17年度からは市立小学校4年生を対象に「プレセカンドスクール」を実施しています。セカンドスクールは、豊かな情操や感性を養い、知的好奇心や探究心を喚起し、さらには課題解決への意欲や態度を育む等、多くの成果をあげてきました。20年目にあたる平成27年度、改めてセカンドスクールについて、そのねらいや意義、教育的効果等の様々な視点から成果を振り返り、子どもたちの「生きる力」を育むセカンドスクールの今後の在り方について考えていく契機として、このパンフレットを作成いたしました。

セカンドスクール実施にあたり、多大なご尽力を賜りました実施地の方々をはじめ、関係者の皆さま、さらには、保護者や地域の皆さまのご理解とご協力に対し、厚く御礼を申し上げます。

武蔵野市教育委員会教育長 宮崎 活志

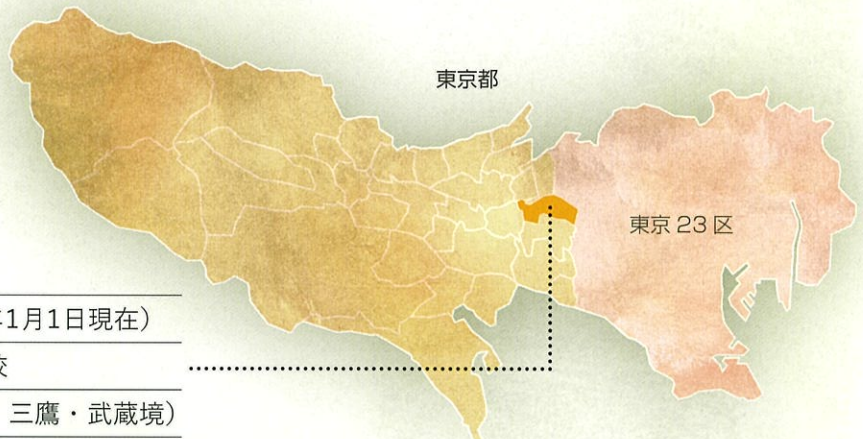


## 武蔵野市の概要

東京都区市部のほぼ中央に位置し、23区に隣接する郊外住宅都市として、昭和22年に市制施行。緑豊かな住宅都市と、教育・福祉・文化などの生活型の産業が高度に集積、調和した「生活核都市」として、発展してきました。市内を東西に貫通するJR中央線に沿って主に3駅圏に分かれており、暮らしの要素がコンパクトに凝縮されています。

### 【市 勢】

|        |                       |
|--------|-----------------------|
| 面 積    | 10.98km <sup>2</sup>  |
| 人 口    | 143,262人（平成28年1月1日現在） |
| 市立小中学校 | 小学校12校 中学校6校          |
| 交 通    | JR 中央線3駅（吉祥寺・三鷹・武蔵境）  |



## 武蔵野市の教育について

### < 基本理念 > 知性・感性を磨き自ら未来を切り拓く武蔵野の教育

緑豊かで、多様な文化環境が整っている武蔵野市で育つ子どもたちは、これからの社会を支える大事な存在であり、コミュニティを支える一員でもあります。

そのため武蔵野市では、平成27年度より「第二期武蔵野市学校教育計画」に基づき、子どもたち一人一人が、自己の能力を最大限に生かすとともに、知性や感性をより一層磨き、自分の意見や意思をもって考え、判断し、主体的に行動する力を育む教育の充実を図っています。

また、計画の基本理念を実現するため、12の重点的な取組を設け、個に応じた指導や言語活動の充実とともに、セカンドスクールの充実を掲げております。セカンドスクールで行われている様々な体験活動は子どもたち一人一人の成長の糧となり、生きる力を育む場となっています。他にも、体力向上の取組や特別支援教育、ICT教育など特色ある教育を展開しています。

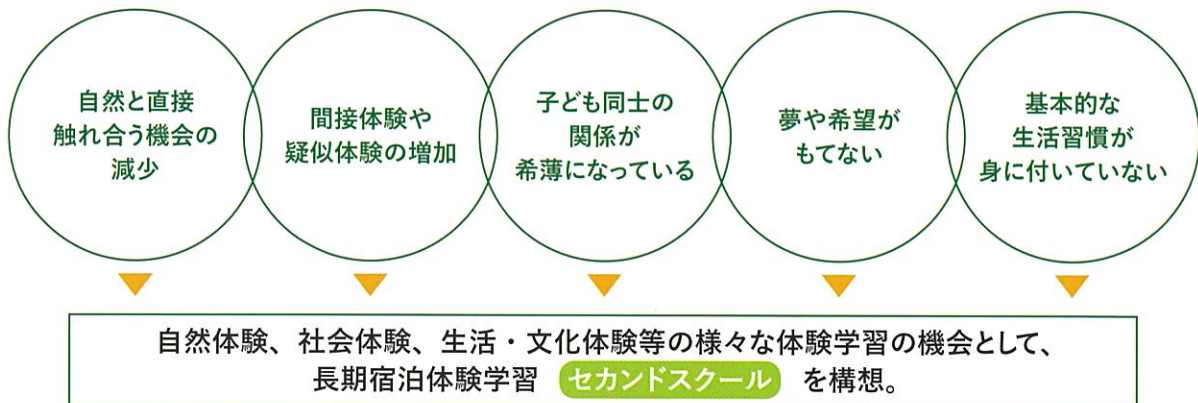
さらに、学校と地域がこれまで以上に連携や協力を強化し、役割を補完し合い、協働する教育を推進しています。



# セカンドスクールのはじまり



## セカンドスクールの構想 ～平成元年当時の子どもたち～



### 実施にあたっての課題

|             |            |               |            |
|-------------|------------|---------------|------------|
| 子どもの心身への負担  | 習い事や塾へ通えない | 部活動への影響       | 教育課程への位置付け |
| 教職員の確保や役割分担 | 教員の負担      | 活動場所、施設や設備の条件 | 実施地との連携、協力 |

長期宿泊を実現するために、さまざまな課題に直面しながらも、学校、保護者、実施地の方々の理解や協力を得て充実・発展してきました。



## ねらいと3つのキーワード

セカンドスクール、プレセカンドスクールでは3つのねらいを掲げ、教育課程に位置付けた様々な体験活動や、事前学習・事後学習を行います。

長期にわたる宿泊体験を通し、生活自立に必要な知識・技能を身に付けるとともに、子どもたちの豊かな人間関係を育てます。



自然とのふれあいを通して、子どもたちの豊かな情操や感性を育むとともに、知的好奇心や探究心を喚起し、課題解決への意欲や態度を培います。

子ども同士の協働により、自主性や協調性を育てるとともに、実施地の方々との交流を通じて、進んで他者とかわる力を培います。

- ・農山漁村の活性化に寄与…実施地の方々から、子どもたちが訪れることで「地域の活性化につながる」という声をいただいています。
- ・確かな学力の向上…探究の過程を大切にした体験学習は、学力向上につながります。



## セカンドスクール 20 年のあゆみ

|          |                                                                                                                              |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成元年度    | 武蔵野市学校経営検討委員会「生き生きとした子どもの育成を目指し、地域と一体となって進める特色ある学校づくり」（報告書）でセカンドスクールを提言する。                                                   |
| 平成 2 年度  | 武蔵野市セカンドスクール構想委員会が「武蔵野市セカンドスクール構想報告書」で基本構想と予想される問題等についてまとめる。                                                                 |
| 平成 4 年度  | 「夏季山村生活体験学習」として、長野県にて夏期休業中に6泊7日で試行する。                                                                                        |
| 平成 5 年度  | 「山村生活体験教室」として、岩手県にて夏期休業中に 12 泊 13 日で試行する。<br>対象学年は小学校5年生、中学校1年生が適当であるとの結論を出す。                                                |
| 平成 7 年度  | 小学校全 13 校が学期中に3泊4日～7泊8日で、中学校は全6校の 1 年生から希望者を募り、夏期休業中に6泊7日でそれぞれ実施する。                                                          |
| 平成 8 年度  | 小・中学校全 18 校が学期中に実施する。                                                                                                        |
| 平成 10 年度 | 「総合的な学習の時間」（平成 14 年度創設）を見据えた活動内容を模索し、各学校で実践する。                                                                               |
| 平成 15 年度 | 小学校4年生を対象としたプレセカンドスクールを4校にて試行する。                                                                                             |
| 平成 16 年度 | プレセカンドスクールを小学校 10 校にて試行する。                                                                                                   |
| 平成 17 年度 | プレセカンドスクールを小学校全 12 校にて実施する。<br>「武蔵野市体験活動検討委員会」を設置し、課題と今後の在り方について検討する。                                                        |
| 平成 19 年度 | 教育を取り巻く動きや変化に適応するための課題を整理・検討し、「武蔵野市体験活動検討委員会報告書」にまとめる。                                                                       |
| 平成 20 年度 | 文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、小学校5校、中学校1校が対象となる。<br>(平成 21 年度は小学校7校、平成 22 年度は小学校3校が対象となる。) |
| 平成 27 年度 | セカンドスクール 20 年の取組が評価され、2015 年度グッドデザイン賞を受賞する。<br>小・中学校連携の取組として「小・中学校合同セカンドスクール報告会」を実施する。                                       |



## 実施状況（平成 27 年度）

セカンドスクール・プレセカンドスクールは、それぞれの学年において発達段階に応じた活動プログラムを計画し、事前や事後の学習も含め、授業の一環として行っています。

セカンドスクールの学習効果を更に高めるため、小学校4年生でプレセカンドスクールを実施し、小学校5年生、中学校1年生での体験学習との系統付けも行っています。

| プレセカンドスクール |                 |
|------------|-----------------|
| 対象学年       | 小学校4年生          |
| 実施時期       | 6月、9月、10月(2泊3日) |
| 宿 舎        | 民宿、ホテル          |

| 小学校セカンドスクール |                      |
|-------------|----------------------|
| 対象学年        | 小学校5年生               |
| 実施時期        | 6月、9月、10月(6泊7日、7泊8日) |
| 宿 舎         | 民宿                   |

| 中学校セカンドスクール |                |
|-------------|----------------|
| 対象学年        | 中学校1年生         |
| 実施時期        | 5月、9月(4泊5日)    |
| 宿 舎         | 民宿、農家、キャンプ、ホテル |



# 主 な 活 動 プ ロ グ ラ ム

## 自然体験活動



### ブナ林トレッキング

ブナに触れたり、ブナの実を拾ったりしながら、豊富な水を蓄えるブナの特徴や、自然環境の中で果たす役割について肌で触れながら学びます。大きなナメクジや森にいる生き物、植物に出会うことも。自然や生き物との関わりを実感できます。

ブナの木の水脈がはっきりと聴診器で聞こえた。ブナから出た水がさらにブナの森の自然を豊かにするんだ!



### 富士山五合目ハイキング

五合目では山麓より気温がずっと低いことを体感できました。足元の石がふだん見慣れた地面とは違うことや、木々が外側に向かって反りながら生えている様子など、気付いたことを話しながら歩きます。

自然はおもしろいなあと思いました。自然の風穴を、生活や仕事に利用することを考えた昔の人はすごいと思いました。



## 社会体験活動



### 稲刈り体験

「米作りがどのように行われているのか」、「農家の人の苦労や工夫している点は何か」などの学習課題を、稲刈り作業や昔ながらの乾燥方法「はざかけ」などの体験活動を通して解決します。コンバインによる機械化の効率性も学びます。

お米を作ることの大変さを知り、今までよりもっと感謝の気持ちをもって食べたいと思いました。



### 林業体験

自然や林業体験について、実施地の方を招いての事前学習や、立派な木を育てるために欠かせない下草刈りや薪割りの活動を通して、林業に関する現状や課題を身近に考えます。

先輩たちの植えた杉の木の周りの下草を刈り、つながりの大切さも学びました。



## 生活・文化体験活動



### わら細工づくり

宿のお父さんに教わりながら、伝統工芸のわらざうりやわら細工を自分たちの手で作り、昔の人の知恵やものを作ることの大変さに気が付きます。米どころならではの稲の全てを大切に生活する生活を学ぶことができます。

たくさんの時間をかけたわらざうり作りを通して、最後まであきらめずにやる力がついたと思います。



### 郷土食づくり

宿の方の指導で、笹ずしの起源や工夫された食材、食べ方などについての話を聞き、実際に作って食べます。郷土の食文化や歴史、生活を一度に学べる体験です。ちまき、おやき、うどん、もちつき、笹団子作りなど各地域の郷土料理にふれます。

体験を通して、笹ずしや芋なますには、それぞれ物語や歴史があるのだと感じました。





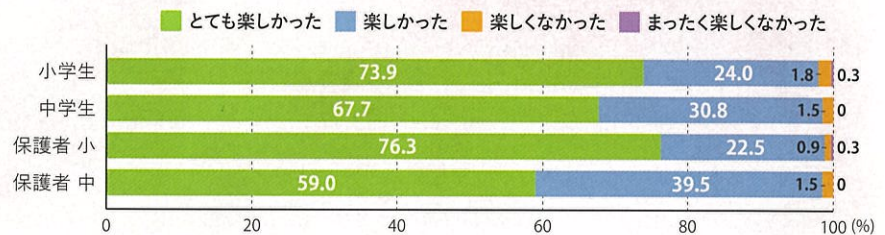
# セカンドスクールにおける体験活動の教育的効果

平成 27 年 12 月に、市立小・中学校のセカンドスクール実施学年のうち、各校一学級ずつの児童・生徒とその保護者および、平成 25 ～ 27 年度に引率をした教員にアンケート調査を行いました。

小学生(5年生)391名・(保護者)346名、中学生(1年生)201名・(保護者)200名、教員211名

## 1. セカンドスクールの感想

セカンドスクール参加後の感想については「とても楽しかった」「楽しかった」の合計が小学生、中学生とその保護者いずれも 9 割以上と高い評価を得ています。



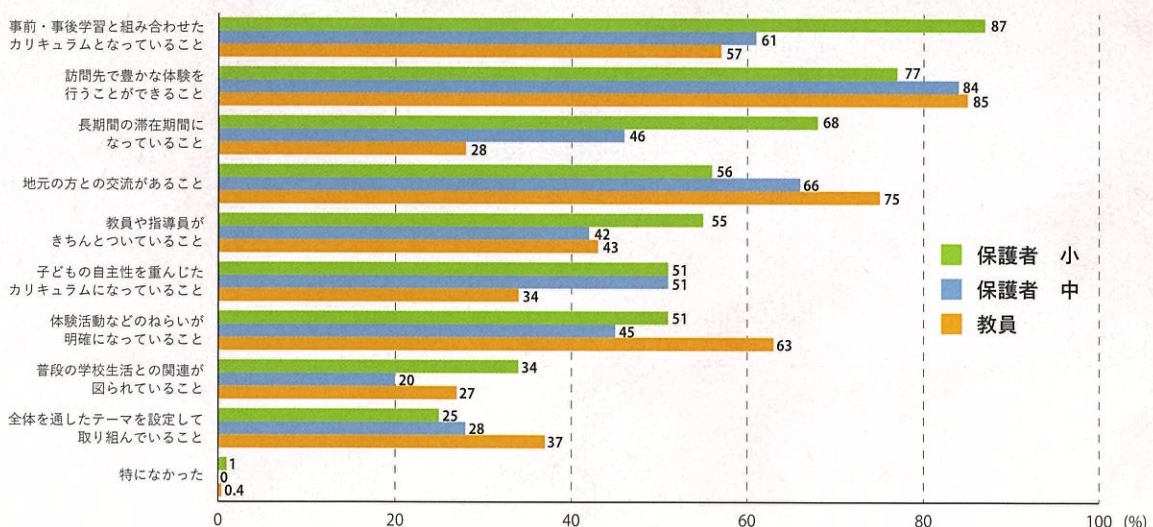
## 2. セカンドスクールに対する評価

|     |                                                                                       |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 保護者 | 「効果的な体験活動である」「どちらかといえば効果的な体験活動である」の合計が、小学校、中学校ともに 99% となっており、ほぼ全員がセカンドスクールを高く評価しています。 |
| 教員  | セカンドスクールの意義について、「有意義だった」「どちらかといえば有意義であった」の合計が 99% となっており、ほぼ全員が有意義であったと高く評価しています。      |

## 3. 教育効果を高める重要な要素（セカンドスクールの重要なポイント）

セカンドスクールの教育効果を高める重要な要素として、「事前・事後学習と組み合わせたカリキュラムとなっていること」「訪問先で豊かな体験を行うことができること」「地元の方との交流があること」が保護者、教員ともに高い回答率となっています。

特に、8割を超える小学生の保護者は、「事前・事後学習と組み合わせたカリキュラムとなっていること」が重要な要素と捉えています。これについては、セカンドスクールが実施地での体験学習だけで終わっているのではなく、総合的な学習の時間に位置付けられ、事前から本番、事後までの一連の子どもたちの探究的な学習の流れが確立していることが大きな要因であると考えられます。また、各校で学校公開等の機会を捉えて、セカンドスクールの事前や事後に行われる中間発表会や報告会等、保護者や地域の方々への発信も積極的に行っていることも要因の一つとして考えられます。





## さらなる充実を目指して



### 小・中学校連携の取組

セカンドスクールのねらいや小・中学校連携の視点を重視した体験活動の在り方について、取組を共有し、実施上の課題を協議することでさらなる充実を目指しています。

平成 27 年度には、小・中学校合同報告会を実施地の方を招いて行いました。教育成果を保護者の方や地域の方々にも理解していただくよい機会となりました。



■活動の発表



■パネルディスカッション



■ポスター展示



■プレゼンテーションソフトを使った発表



■ポスターセッション



### 長期宿泊体験活動の可能性 ～セカンドスクールの成果をファーストスクールへ～

自立心を育て  
「主体的な学び手」に

生活自立に必要な知識・技能を身に付けることで、自己肯定感や有用感の高まりとともに豊かな人間関係を築き、主体的に物事に取り組む意欲や態度の育成を目指します。

直接体験を経て  
「自ら考える学び手」に

自然とのふれあい等の様々な体験活動が、子どもたちの豊かな情操や感性を育て、知的好奇心や探究心を喚起することにより、自ら課題を解決する力を養います。

自律と協働  
「共に探究する学び手」に

長期の集団生活における子どもたちの協働により自主性や協調性が育まれ、実施地の方々との交流を通じて、進んで他者とかわる意欲を培います。

「苗をまっすぐ  
植えられるようになったよ」



「ピカピカのお米は  
宝物のようでした」



「本当のがんばりと  
楽しさがわかった」



GOOD DESIGN AWARD  
2015年度受賞

### 2015年度グッドデザイン賞を受賞しました。

長期宿泊体験学習「セカンドスクール」が「2015年度グッドデザイン賞（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）」を受賞しました。

審査では、「市の教育委員会として20年もの間、こうした取組を続けていることは素晴らしい。その内容もこれまでの経験が集約されていて、子どもたちにとっては貴重な体験になっていると想像しています。」という評価を審査委員の方よりいただきました。

発行：武蔵野市教育委員会 指導課

〒180-8777 東京都武蔵野市緑町2-2-28

電話番号 0422-60-1897 URL <http://www.city.musashino.lg.jp/>

平成28年3月